



防風石垣の続く町並み

## 町並みについて

- ◆天草市の東部に位置し、天草諸島最高峰の倉岳(標高約682m)の麓の扇状地に集落があります。奥行きがなく急傾斜である地形のために、冬場には「倉岳おろし」とよばれる強烈な北風が、倉岳から吹き下ろします。
- ◆棚底集落の最大の特徴は、石材(ヒン石)を利用した石造物群にあり、集落を形成する家屋の周囲には防風石垣が形成され、段状の水田や畑地の法面も石積みで造られています。



## 町並みの中心(核)となる伝統的建造物

### 防風石垣とコグリ

- ◆防風石垣：家屋の周囲を囲む石垣で、高さは低いもので1.5m、高いものでは5mに届くほどになります。潮風から家屋を守るための漁村集落の類例と異なり、倉岳から吹き下ろす強風対策のために造られたとされ、集落に約100箇所残っています。
- ◆コグリ：棚底地区独特の地下式用水路で、地元では「コグリ」と称されています。地下の水源から農業用水を取り入れるための施設で、流路は、長いものでは一本が数百mにも及ぶと推定されています。地下に張りめぐらされている石組暗渠網としては、国内でも他に類を見ない規模を誇っています。



「コグリ」と呼ばれる開口部

八代海に面し、防風石垣が続く独特の農村の町並みは、熊本県内でも他に見当たらない壮観な景観を形成しています。また、集落の地下に所狭しと、はりめぐらされているコグリが潤す水田は小規模なものも多く、先人の労苦が偲ばれ、石とともに共生してきた集落の歴史を物語っています。